

|  |           |      |    |
|--|-----------|------|----|
| 授業科目名  | 持続可能社会創生学 | 単位数  | 2  |
| 担当教員名  | 石田 秀輝     | 担当形態 | 単独 |
| 実務内容<br>(実務家教員の場合)   |           |      |    |
| <p>「学位授与の方針」との関係<br/>         厳しい制約の中で心豊かに生きることを考える講義であり、共生科学の一翼を担うものである。共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p>   |           |      |    |
| <p>授業の到達目標及びテーマ<br/>         テーマ：人と地球を考えたあたらしい暮らし方のかたち<br/>         目標：不可避の地球環境問題、近代資本主義の限界という2つの問題に対するアプローチの方法を理解する。</p>  |           |      |    |
| <p>授業の概要<br/>         地球環境制約、近代資本主義の限界の構造を理解した上で、それら制約を肯定した中での心豊かな暮らし方のかたちを求めるためのアプローチ法とそこから生み出される具体的な解について論じる。</p>  |           |      |    |
| <p>授業計画</p> <p>第1回： 今、なぜ思考の転換が必要なのか？<br/>         第2回： 資本主義社会の2つの限界<br/>         第2回： 地球環境問題とは？ 生物多様性<br/>         第4回： 地球環境問題とは？気候変動、エネルギー、資源、水、食料<br/>         第5回： 地球環境問題の本質<br/>         第6回： 物質的消費欲求の劣化<br/>         第7回： 持続可能な社会とは？<br/>         第8回： 足場を変えて思考する I フォーキャスト思考とバックキャスト思考<br/>         第9回： 足場を変えて思考する II バックキャスト思考と自然<br/>         第10回： 自然のすごさを賢く活かす ネイチャー・テクノロジー<br/>         第11回： 暮らし方のかたちを変える I バックキャスト思考でライフスタイルを描く<br/>         第12回：暮らし方のかたちを変える II 90歳ヒアリングで日本をつくった文化要素を考える<br/>         第13回：暮らし方のかたちを変える III 「間」抜けの「間」を埋める<br/>         第14回：暮らし方のかたちを変える IV 予兆を分析する<br/>         第15回：ローカルで「間」を埋めてみる（実践結果）</p> <p>定期試験</p> |           |      |    |
| <p>スクーリングでの学修内容<br/>         全15回のポイントを2日間のスクーリングで整理するとともに、特に11-15回で予定している、「暮らし方のかたちを変える」部分をディベートなどを通して理解を深める。</p>   |           |      |    |

#### 教科書

- (1) 石田秀輝・古川隆蔵(2014)『地下資源文明から生命文明へ』東北大学出版
- (2) スクリーニング配布資料

#### 補助動画教材

持続可能社会創生学①～⑩

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLwrsvYhJb8rKKLwM-kh2\\_e8T90zs-VtD+](https://www.youtube.com/playlist?list=PLwrsvYhJb8rKKLwM-kh2_e8T90zs-VtD+)

#### 参考文献

- (1) 安田喜憲(2016)『環境文明論』論創社
- (2) 広井良典(2015)『ポスト資本主義』岩波書店
- (3) 石田秀輝(2022)『危機の時代こそ、心豊かに生きる』kkロングセラーズ
- (4) 内山節、大熊孝、鬼頭秀一、榛村純一(1999)『市場経済を組み替える』農山漁村文化協会

#### 学生に対する評価

スクリーング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。